

# 希望坂(北中だより)

第23号 令和3年3月24日

みやき町立北茂安中学校 校長 森田 直樹

## 学校教育目標

「知性・感性・耐性」を  
自らたかめる生徒の育成

〒849-0113 みやき町大字東尾 4435

<https://www.education.saga.jp/hp/kitashigeyasu-j/>



## ◆◇1年間のまとめ 修了式の話◆◇

去年の修了式は「今日は3週間ぶりの登校になりましたね。」という言葉で始まりました。この1年、本当に COVID19に振り回された毎日でした。そして、学校が本当に大切な存在であると再認識した時間でもありました。

その中でも皆さんは、間違いなく成長してきました。小学生を卒業した1年生は、今や1.9年生で、新しい後輩を受け入れる時期に近づいています。不安をもっていた2年生は、今や2.9年生であり、本校を任せるに足るたくましさを身につけています。

さて今日は、中田英寿という人の話をしたいと思います。1995年、Jリーグ・ベルマーレ平塚入団。98年W杯フランス大会出場、その後イタリアのセリエAのペルージャ、ローマ、パルマを経て、イングランドのプレミアリーグ、ボルトンで現役を終えたストライカーです。2006年のW杯ドイツ大会にも出ています。

その彼ですから、どこかのチームの監督かコーチをするものだと思っていましたら、なかなかその気配はなく、時々解説者でTVに出るくらいでした。ところが、3月13日のある新聞を見てびっくりです。貿易会社の代表取締役をしていました。会社の名前は、Japanese Craft Sake Company。

なぜそうなったのでしょうか。サッカーを引退したあと、好きなことを探す旅に出たとのこと。そして、日本のことをほとんど知らないことに気づき、積み重ねてできあがっている伝統産業こそ日本文化だと思ったようです。そして、その伝統産業に足りないものが、「情報」と「流通」であると考え、世界に日本の良さを発信する役割を自分の仕事にしたと考えられます。

私はそのチャレンジ精神に、彼のたくましさと感じました。彼は、ゼロからのスタートですから、日本を旅し酒蔵や農家を訪問して、生産者と一緒に作業し修行をしたとのこと。その姿を朝日新聞の記者は、スポーツと重ねています。中学時代のコーチも「彼は電柱の明かりの下で、単調な基本練習を何時間でも繰り返していた」と言い、記者も「決して器用なタイプではないが、その積み重ねが世界に通用する技と体を生んだ」と語ります。

インタビューで「10年後、20年後は何をしていますか」と問われ、彼は「先のことはわかりません」「重要なのは今を全力で生きること」「文化と同じで人生も、毎日の積み重ね」、それが「最終的に人が生きた集大成」と答えています。これを読んで、私は「反省しなければ。」と思いました。

4月6日始業式には、3年生へ、2年生へとステップアップする皆さん。「点滴、岩を穿(うが)つ」とことわざにあります。どうぞ今を大切にして、新しい毎日を日々こつこつと積み重ねて力をつけてください。

## ◆◇お世話になりました。辞任式◆◇

今年度末の人事異動で、以下の職員が本校を離れることになりました。大変お世話になりました。お礼を申し上げます。

- ・校長 森田直樹(東脊振中へ)
- ・教頭 城野文雄(定年退職)
- ・教諭 戸高宏樹(田代中へ)
- ・町職 貞包志津加
- ・用務員 宮原則好
- ・調理員 一番ヶ瀬晴美
- 牛島洋子
- 宮原佳子
- ・ALT マイケル・パーカー



## ◆◇入賞 おめでとう◆◇

第10回波戸岬杯中学校女子バレーボール大会

優勝 バレーボール部

最優秀選手賞 宮原百菜

みやき町青少年健全育成標語コンクール

最優秀賞 山口愛加

優秀賞 氏原美咲姫 野見山玲奈

